

令和7年度 第3回松戸市文化スポーツ推進審議会 議事録

1. 開催日時	令和8年3月25日(水) 18時～20時
2. 開催場所	松戸市役所 新館7階 大会議室 (zoomによるオンライン含む)
3. 出席者等	<p>【委員】(名簿順) 15名 熊倉委員(会長)、田箆委員(副会長)、小島委員、 岩下委員、菊田委員、坂委員、局委員、大成委員、 菊地委員、秋葉委員、武田委員、羽賀委員、森委員、 山根委員、和座委員</p> <p>【松戸市】 文化スポーツ部長、生涯学習部長、学校教育部長、 文化スポーツ政策課長、スポーツ振興課長、 スポーツ施設担当室長、文化にぎわい創造課長、 国際推進課課長補佐、社会教育課長、 文化財保存活用課長、博物館次長、戸定歴史館長、 図書館長、事務局(文化スポーツ政策課)ほか</p>
4. 傍聴者	1名
5. 次第	<p>1 議事 ・令和8年度一般社団法人松戸市スポーツ協会への補助金交付 について(意見聴取) ・「文化スポーツ創造のまち・まつど」推進方針(案)の答申に ついて</p> <p>2 その他</p>
6. 資料	<p>【配付資料】</p> <p>資料1 (仮称)松戸市文化スポーツ創造のまち推進方針について 資料2 令和7年度第1回文化スポーツ推進審議会 会議録 資料3 令和7年度第1回文化スポーツ推進審議会 意見票</p>
7. 議事	以下のとおり

開会

・文化スポーツ部長・挨拶

1 議事 令和8年度一般社団法人松戸市スポーツ協会への補助金交付について (意見聴取)

(事務局)

資料1を用いて説明。

(熊倉会長)

意見はあるか。

(異議なしの声)

(熊倉会長)

本補助金の交付について、承認とする。

1 議事 「文化スポーツ創造のまち・まつど」推進方針(案)の答申について

(事務局)

資料2、3を用いて説明。

(熊倉会長)

説明内容での不明点等、質問はあるか。その後一人ずつ意見をいただきたい。

(小島委員)

1点。戦略3-3について、「文化」となっているか「文化芸術」ではないか。

(文化スポーツ政策課長)

誤植である。「文化芸術」に修正する。

(山根委員)

P8の図の重なり、4と5は薄いと感じる。図に意図はあるのか。

(文化スポーツ政策課長)

他意はない。配置を調整する。

(和座委員)

子どもの主体的な参画について色々書かれていてよいと感じている。

子どもの参画に対して、評価・フィードバックできるとよいと考えている。そのことに関して施策あるのか。

(文化スポーツ部長)

子どもの権利条約の基本的な考え方をベースにしたご発言と受け止めている。この方針は施策、戦略のレベルであるから、今後、各事業において子どもと一緒に考えていく中で評価・フィードバックをしていけるとよいと考えている。

(和座委員)

スポーツの指導法は今後より一層科学的に行われていくべきだと考えている。この方針における位置づけを再度説明してほしい。

(文化スポーツ政策課長)

戦略1-2「指導者育成」の中で取り組んでいくことを想定している。

(和座委員)

中学校の部活動ガイドラインで科学的な指導について踏み込まれている。教師と生徒が互いに評価し合うことも重要だと感じた。今後は松戸市もしっかり取り組んでほしい。

トップアスリートとのふれあいの中で、科学的な指導の成果を子どもが享受できるようにあってほしい。

(熊倉会長)

各論は次の審議会の議論でしていきたい。

方向性としてどうあってほしいか議論したい。

(森委員)

P8の戦略の見出しとページ下部の図内のキーワードが一致していないと感じる。

例えばウェルビーイングは施策の中に記載がない。ソフト・ハードの基盤整備というのも単独で見るとイメージがしづらいつと感じた。

(文化スポーツ政策課長)

P8図内のキーワードについては、戦略1から5の重要なポイントを抜粋したイメージであった。森委員の指摘を踏まえ、戦略との整合、表記の仕方は事務局で調整する。

(坂委員)

K P I の記載はないが対話的評価（ピアレビュー）による定性的評価の記載がある。専門家や実践者が評価をするのか。また、専門家とはどういった人たちか。

(文化スポーツ部長)

他地域の同様な事例へのヒアリングや、専門家が相互に評価する仕組みなど、様々な方法がある認識である。具体的な方法については、今後制度設計しながら考えていく。

K P I の記載はしていないが、この方針の評価軸を対外的に説明していくために施策5 - 3を記載している。

(熊倉会長)

特に文化政策は、数値的な目標設定等、アウトプット評価はそぐわないという考えがある。今は鳴かず飛ばずでも将来につながるものも受け入れている。

ピアレビューは定性的な評価の中でも形成的評価と言われており、プロセスややり方等を自分たちで確認しあうもの。先進事例と比較しながらマネジメントややり方等を自省・改善していく。合わせて交流も生まれるので、前向きに捉えている。一方で、個人的に本方針ではK P I の導入は後ろ向きである。もちろん個別具体の施策に取り組む際には、ある程度数値的な目標は必要かと思うが、この方針のレベルでは方向性を示すもので数値を追うものではないという考えである。

(坂委員)

進捗管理と評価は必要だと考えている。行政の自己評価ではなく第三者による評価で、施策の進捗や取組の質を維持・向上していくことも重要だと考えている。

例えば施設整備において、継続発展し、より多くの市民にとってプラスになっていることを把握するため、先程の対話的評価と併せて定量的評価を用いて取組を推進していけるとよい。

戦略1 - 2「指導者育成」について、子どもの技術、心身向上は重要だが、子ども健全な発達のために医療面での指導力を担保する育成を期待したい。

(小島委員)

よくまとまっていると感じている。「文化」は文化芸術基本法と文化財保護法で対象が異なる。文化財保護法は家や地域、伝承、継承を対象とした縦のつながりである文化。文化芸術基本法は稽古や習い事、流派等の横のつながりを意図した内容。今回P 5で文化芸術基本法に依拠した施策と整理されたことで、横のつながりをつくっていくというこの方針の意図もよく理解できた。前回の意見・疑問はこれで払拭された。

(熊倉会長)

事務局で「文化芸術」と整理した。理解を得られてよかった。

(和座委員)

戦略 2-3「健康づくりを推進します」という表記は医師の立場からもありがたいと感じている。ここに「認知症」「精神疾患」についても対象としている記載もあるとよい。文化芸術とスポーツはそこにも生かされると考えている。

「ウォーキングイベント」の記載もよい。日常生活の中にあるウォーキングは健康づくりへの導入として最適だと考えている。

(熊倉会長)

フレイルの中に認知症は入っていないのか。

(和座委員)

相互に関連はしている。フレイルによって体が動かない、コミュニケーションを取らないとなると、認知症も進んでしまう。

(武田委員)

わかりやすい表現になったと感じている。

「松戸版アーツカウンスル」は具体的にイメージできないが、松戸にあったかたちで中間支援組織をたちあげるのは楽しみである。

(熊倉会長)

国の基本法にもアーツカウンスルといれたかったが、いれられなかった。イギリスのアーツカウンスルがモデルケースで既にあったが、文化芸術振興基本法と最初の計画には「基盤・プラットフォーム」としてしか記載できなかった。その後各自治体で様々なトライがなされた。

現在は、年1回程度文化庁が各施策の関係者を集めて、それこそピアレビューをしていたと記憶しているが、どうか。

(森委員)

年3回、情報共有の場がある。

(熊倉会長)

それぞれの在りようはどのような状況なのか。

(森委員)

自治体の文化振興財団内にアーツカウンシルを置くケースが多い。しかし、それがよいかはわからない。

名古屋市では文化振興財団とは別組織となっている。助成が主な役割となる場合、審査会を置くケースもある。調査研究を行うケースもあれば、モデル事業を推進するケースもある。この3ケースに集約できるのではないか。

(熊倉会長)

今、政策に求められるのは、文化芸術やスポーツを通じた「社会的なつながり」だと考えている。松戸に人材はいる、とすれば横のつながりを強化していくための公金を投じていくことも重要になると考えている。

ウェルビーイング向上は、元気でない人も対象である。物理的・社会的孤立への対策は、やりようによっては効果があると考えている。そういった仕掛けを考えてくれるチームがあるとよいと感じる。各論はおって議論したい。

(局委員)

戦略4-2「利便性向上」とあるが、松戸市の施設はだれでも利用できる。そのため、最近は市内団体が「予約できない」というケースもよく耳にする。子どもの活動場所が頻繁に変更を余儀なくされると、事故の懸念もある。

P8下部の図は、タイトルがあると市民にわかりやすく伝わると感じた。

(熊倉会長)

運用の弾力化については、市でポリシーをつくって弾力的な運用する等、検討してほしい。

(岩下委員)

これまでの議論をふまえてわかりやすくまとめられていると感じた。

個人の活動だが、ユニバーサルなバスケットボールチームを立ち上げた。まずは知ってもらい、知ってそこに参加する人を増やすこと、広めていくことに重きを置くことも大事なことであると思う。情報を届け広げていくことで、色々な関係機関で具体的な施策が広がり、市民の活動がよりよくなっていくとよいと思った。

スポーツ推進委員として、戦略2-4と1-4が一番大事だと感じた。

(山根委員)

単純に疑問だが、こうした方針に予算について記載がないのはよいのか。

(熊倉会長)

方針なので、記載はない。

(山根委員)

今日の資料1は文化ではなくスポーツの補助金だけが議題だったが、なぜか。

(文化スポーツ政策課長)

社会教育委員会議で文化施策について議題にしている。本会議の条例上のたてつけから議題1のスポーツの補助金交付についてふれた。

(熊倉会長)

こうした方針は総花的になりつつあるが、ある程度の方向性を定めているものである。次のフェーズで「どこにどう予算をつけていくか」など議論することになるだろう。

(文化スポーツ部長)

予算の使い方をないがしろにしているわけではない。これまでは文化振興財団が団体への支援等行っていたが、こちらとしても文化に対する予算の組み方が整理できていないと感じている。そういったものを整理する礎となる議論になれば。

(大成委員)

わかりやすくまとめられた印象である。

これまで議論にあがらなかったと思った点がいくつかある。

「企業」という表現があったが、文化芸術分野でも企業や教育との繋がりや連携を進められると思う。

戦略2-1「多様な価値観を認めあう」というところで、これは国際交流のことも入っていると思うが、これまで松戸市がやってきた事業等、もう少しアピールできてよいのではという印象である。

松戸はサブカルチャーのイメージもあると思うがこのあたりの表現が弱い印象である。文化芸術の枠組みを掘り下げられるとよい。

(熊倉会長)

サブカルチャーは営利で成立しているため従来は行政支援の対象ではなかったが、若い人自身が盛り上がる手段等、社会的な成果としてはあり。ただし「プログラミング」や「eスポーツ」、「コスプレ」等の記載は一部分を具体的に記載しすぎている印象もある。「サブカルチャー」という表記だけでもよいのでは。

「内なる国際化」は放置しておくのはよくないと考えている。現在の国際交流は、従来のものとは異なり、多国籍化している市民の孤立を防ぐもの。相互理解、自国文化の理解は重要になるだろう。

(菊池委員)

方針案をメールで見たときワクワクした。これまでの議論の積み重ねでまとめられたのだろうと感じた。義務教育の9年間は自分を知る機会と考えていて、この方針はその先にあるものだと感じる。「ウェルビーイング」を目指していくという方向性がよいと感じた。市民一人ひとりがよりよく生きていけることを目指すことには賛同であり、楽しみである。

1点。「こども」と平仮名だが、どのような意図なのか。

(文化スポーツ政策課長)

「こども家庭庁」など内閣府の書き方に準じている。

(熊倉会長)

オンライン参加の委員は意見あるか。

(菊田委員)

戦略2-1「多様な価値観を認め合う」切り口は、ありがたい。一方で、例えば「障害」は千差万別である。中には周りに気を使ってしまい、「全ての人と一緒に何かをする」ことが考えられない人もたくさんいる。あえて障害のある児童だけを対象にしたゆるい支援も始まっている。知的障害の子や車いすの子たちがつながりたくないと思っているわけではないが、そこに高いハードルがあることも知っていてほしい。

戦略4-2市立博物館の大規模リニューアルについて、松戸市障害者団体連絡協議会として要望を伝えたが、白紙撤回のニュースを目にした。現状どうなっているのか。

(博物館次長)

1月から8月まで休館している。リニューアルについては継続検討となっている。

(秋葉委員)

わかりやすくまとまっていると感じた。方針は最大公約数的だが、今後詳細を詰めていってほしい。

P6図中の「経済的価値」には少し違和感がある。本質的価値・社会的価値と並列して目指すものでもないと感じた。あわせて何を経済的価値とするか、戦略5にある資金調達とは違うと考えていて、整合もとれていないように感じた。

(熊倉会長)

文化庁の計画に則った区分で経済的価値は「観光」「産業振興」「街の地価」などを見据えている。そちらを参酌しているのではないか。

(文化スポーツ政策課長)

熊倉会長と同じ認識である。戦略5は持続可能な取り組みとするため、公金だけで賄えない部分をどうしていくかの対策として方向性を示している。

(熊倉会長)

儲ける方向性を国も議論している。秋葉委員の意見のように、簡単に経済につながるものはないと個人的には感じている。今後、素直に国の方針に合わせなくてもよいと思う。

(羽賀委員)

資料に異論はない。戦略1と2の「情報発信」について「情報がはいつてこない」人も多いと思う。どうアウトリーチしていくかも考えられるとよい。

(熊倉会長)

文化芸術とスポーツを入り口にして、新たに関心を喚起していくことは可能性があると感じている。松戸市では、文化とスポーツを通して分断せず統合して、将来的に枠組みを取っ払って新しい価値のありようを積み重ねていく街になったらよいと感じている。

(田蓑副会長)

市民の健康づくりからプロスポーツまで考えていく方針であり、これからががんばりどころだと感じている。

文化芸術とスポーツを統合していくことで「まず知ることができる」という価値は大きいだろう。また、将来的に子どもたちにとって松戸の街が楽しいということが伝わっていくとよいと感じた。

今後は無関心層、関心層へのアプローチが重要になると思うが、今どきの子どもは情報収集能力や柔軟な発想を持っている。すぐに結果を求めるのではなく、本質的な価値の向上にむけて、継続的に取り組んでほしい。

(熊倉会長)

他に意見はあるか。今後はパブリックコメントも予定されている。

(小島委員)

P6「環境」「街づくり」の用語が何を指しているか見えづらいと感じた。

自然環境にかかる枠組みとして「生態系」と表記してはどうか。文化は文化財保護法とは異なると理解した。

(森委員)

戦略3-4は何が主語なのかわかりづらいと感じた。

(文化スポーツ政策課長)

身近な場所でトップレベルにふれることで地域の活力にしていくということを示したい。表現を再考する。

(和座委員)

戦略4-4について。子どもの主体的な参画について具体的でわかりやすい表現になっているとよい。

文化芸術とスポーツが健康づくり（ウェルネス）にリンクしているという理解をした。バイオ・サイコ・ソーシャルにつながるものがウェルビーイング向上につながるものとされていて、文化芸術は特にサイコ・ソーシャルは重要だと感じている。信頼できる人との社会的つながりは健康にも大きく影響する。バイオはスポーツが近いといえるだろう。戦略2-3はこの点にフォーカスしてほしい。

(熊倉会長)

e スポーツが散見されるが、松戸市は注力していくのか。

(文化スポーツ政策課長)

事業も実施しており、いれていけるとよいと考えている。

(熊倉会長)

オリンピック競技にもなるが、トップアスリート育成の支援とこの方針の「支援」は真逆である。安直に「流行ったからいれる」では、いかななものかと思う。ややトーンダウンしてもよい気もしている。

(田蓑副会長)

e スポーツの概念も拡張している。例えばドローンサッカーが人気だったりする。会長が言うようにオリンピックチャンピオンを目指すというのは違うと思うので、競技ではなく「人と人が出会う場」としてe スポーツを活用していくことは重要なポイントだと感じている。

(熊倉会長)

戦略2-1で重点的に記載できればよい。概念整理が不十分な中散見されるのは違和感がある。

(文化スポーツ部長)

修正を検討する。

(熊倉会長)

いつまで修正意見を受け付けるか。

(事務局)

4月10日まで受け付ける。

2 その他

・事務局より事務連絡。

閉会